

自己愛研究の動向

—PNI 開発に焦点を当てて—

中村 峻・日下部 典子

(福山大学大学院人間科学研究科・福山大学人間文化学部心理学科)

目 的

従来自己愛研究の多くは、Raskin & Hall(1979)の開発した自己愛人格目録(Narcissistic Personality Inventory: 以下、NPI)を用いている(例えば、小塩, 1998 など)。しかし NPI の問題点として、誇大性の自己愛のみに限定されており、脆弱性の自己愛を測定できない、精神的健康の指標である自尊感情と正の相関を示すことが報告されている(岡田, 2009)など、自己愛の病理性が反映されにくいことが挙げられる。

そのような背景から、Pincus et al. (2009)は NPI よりも自己愛の病理性を反映しながら、誇大性と脆弱性の自己愛を包括的に測定できる Pathological Narcissism Inventory(以下、PNI)を開発した。PNI はその開発に際して、一般群だけでなく臨床群のデータも用いられ、自殺念慮や自殺企図、他者殺害念慮とも関連が示されている。本研究では、PNI の妥当性・信頼性の検討に関する研究を概観することを目的とする。

方 法

オンラインデータベース PubMed.gov, CiNii を用いて、キーワードに“Pathological Narcissism Inventory”を含む研究を抽出した。その結果、2021年11月9日時点で PubMed.gov では 59 件、CiNii では 2 件あった。そのうち PNI の妥当性・信頼性の検討に関する研究を概観した。

結 果

PNI 作成及び妥当性等に関する論文は 15 本あった。その中で Pincus et al. (2009)は、理論的研究及び実証的研究に関するレビューや自己愛性 PD の事例検討を踏まえて病的自己愛を 7 側面に概念化し、項目原案を作成した。探索的・確認的因子分析の結果、誇大空想、自己犠牲的自己高揚、搾取性、権威的憤怒、随伴的自尊感情、脱価値化、自己隠蔽の 7 因子 52 項目として構成され尺度の

信頼性が示された($\alpha=.95$)。また、自尊感情と負の関連、NPI と正の関連などにより尺度の妥当性が確認された。

52 項目と項目数の多い PNI のより簡便な尺度として Schoenleber et al. (2015)は、短縮版 PNI(B-PNI)の作成した。7 因子各 4 項目の全 28 項目で構成されており、PNI と同様の因子構造を持つことが確認され、原版と概ね同様の基準関連妥当性が示された。

川崎・小塩(2020)は、日本語版 PNI(PNI-J)を作成し、因子構造、信頼性、妥当性を検討した。その結果、原版とほぼ同様の因子構造が確認され、一定の信頼性・妥当性が示された。また、短縮版(B-PNI-J)についても検討が行われ、相関パターンから全項目版とほぼ同様の性質を持っていることが示された。

PNI を用いた研究は本邦においては未だ行われていないが、海外では例えば、病的自己愛とメンタルヘルスサービス利用の少なさやインターク時の症状の重さと関連(Elison, Levy, Cain, Ansell, & Pincus, 2013)などが示されている。

考 察

NPI は典型的でより適応的な自己愛的特徴を示しているが、PNI は内的でより病的な自己愛的特徴を反映している。PNI を用いることで、暴力や引きこもりといった問題の背景として誇大性・脆弱性自己愛が潜んでいる可能性を検証できると考えられる。本邦においては、日本語版 PNI(PNI-J)及び短縮版(B-PNI-J)のさらなる信頼性・妥当性の検証や、抑うつなどの臨床的変数との関連の検討が求められる。

引用文献

Pincus, A. L., Ansell, E. B., Pimentel, C. A., Cain, N. M., Wright, A. G. C., & Levy, K. N. (2009). Initial Construction and Validation of the Pathological Narcissism Inventory. *Psychological Assessment*, 21, 365-379.